

教育課程論

担当教員 山本 孝司

配当年次 1・2年

開講時期 第1・2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 1年生は第2学期、2年生は第1学期に受講すること

【授業のねらい】

学校教育における教育課程の役割や機能、教育課程編成の基本原則、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解するとともに、カリキュラム・マネジメントの意義について説明できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	教育課程とは：教育課程の意義
2	教育の目的と教育課程の編成原理
3	教育課程の歴史的展開と教育方法
4	日本における教育課程の歩み：戦前
5	日本における教育課程の歩み：戦後
6	教育課程の法と行政
7	学習指導要領の特徴と変遷（1）経験主義から系統主義、教育の現代化
8	学習指導要領の特徴と変遷（2）「ゆとり教育」と新学力観、「脱ゆとり教育」
9	教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法
10	児童又は生徒や学校、地域の実態を踏まえた教育課程や指導計画
11	学校教育課程全体のマネジメントおよび学習指導要領に規定する教育課程のマネジメント
12	授業計画（学習指導案）の作成
13	授業計画（学習指導案）の発表と相互検討
14	教育課程の経営と評価
15	今日の教育課題と教育課程：「学力」をどう捉えるか

【履修上の注意事項】

上記の計画は、受講者の数及びニーズに応じて一部変更する場合があります。事前にテキストを読み、事後は復習しておくこと。(120分)

【評価方法】

期末レポート70%+リフレクションペーパー30%を原則とし、総合的に評価する。

【テキスト】

広岡義之編著『はじめての教育課程論』ミネルヴァ書房、2016年

【参考文献】

『学習指導要領』

保健体育科教育法 I

担当教員 則元 志郎

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

教科教育学は教員免許に養成に関わる重要な授業科目であり、本科目はそのうちの保健体育科教育を扱う。保健体育科教育は基礎的内容であり、主に保健体育科の目的・内容、教育課程、社会変化と学校体育、運動の特性論、教授－学習過程論、学習指導要領、授業計画の立て方・考え方、体育評価論などについて学習する。到達目標として、保健体育科教育法について保健体育教員の立場から、各論を理解したうえで体育実践を指導できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	保健体育科教育 総論
2	目的・目標論（保健体育科の目的・目標の変遷と現代的課題）
3	内容論1（学習指導要領における内容の捉え方）
4	内容論2（教科内容の基準と系統化）
5	教材論1（教材と教科内容の関係）
6	教材論2（教材研究と教材化の視点）
7	運動領域論（学習指導料における運動領域の捉え方）
8	指導方法論（学習としての体育、「めあて学習」の見方・考え方）
9	学習形態論（グループ学習の基本的要素と構成）
10	学習計画論（年間計画、単元計画、指導案の考え方）
11	授業づくり論1（授業づくりの視点）
12	授業づくり論2（授業づくりの実際）
13	学習評価論（評価基準と評価内容、指導と評価）
14	教師論（保健体育教師の資質と能力）
15	授業全体の総括

【履修上の注意事項】

授業前に配布した資料（テキスト）を読み、次回の内容について予習しておくこと。さらに、授業後には復習も行うこと。

【評価方法】

課題レポート（5回）100%

【テキスト】

授業時にテキストとなる資料を配布する。

【参考文献】

竹田・高橋・岡出編著『体育科教育学の探求』大修館書店、文部科学省『学習指導要領 保健体育編』学校体育研究同志会編『体育実践に新しい風を一教科内容を軸に体育実践を創る一』大修館書店

保健体育科教育法Ⅱ

担当教員 末松 大喜

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①健康観の変遷を理解する。
- ②国民健康の現状と課題を把握し、高校期における保健学習はどのようにあるべきかを理解する。
- ③新学習指導要領において明示された保健分野の「技能」「表現」を理解し、実践できる。

【授業の展開計画】

新学習指導要領で明示された保健体育科・保健分野の目標を正しく理解できるようにする。
また、中学校・高校期にとって「おもしろい保健の授業」を展開することができる、保健教科に秀でた保健体育科教師としての力量を高められるように進める。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（講義の進め方、受講する際の留意事項、保健教科目の性格等）
2	健康科学概論（食事、運動、休養とヘルスプロモーションの意味）
3	保健体育科教師としての健康哲学
4	中学校および高等学校学習指導要領保健体育の教科目と指導案
5	中学校・高校期の発育の特徴
6	中学校・高校期の発達の特徴
7	保健科教育の授業づくり
8	課題レポート（保健科教育カリキュラム）バズセッションと全体討議
9	仮説実験授業、授業書方式・ICTの活用（模擬授業準備）
10	安全教育・安全管理・応急処置
11	模擬授業① 現代社会と健康・前半
12	模擬授業② 現代社会と健康・後半
13	模擬授業③ 生涯を通じる健康
14	模擬授業④ 社会生活と健康
15	模擬授業評価、教育実習および採用試験に向けて

【履修上の注意事項】

各時間の講義課題を明確にして、出席すること。過去受講した健康教育を振り返り、何が良くて、改善すべきことは何かについて、考えておくこと。

【評価方法】

期末試験（40%）、課題レポート・授業参画態度（60%）

【テキスト】

最新「授業書」方式による保健の授業 保健科教材研究会 編 大修館書店
中学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省

【参考文献】

現代保健学習・指導事典 保健科教材研究会 編 大修館書店
中学校学習指導要領 文部科学省

保健体育科教育法Ⅲ

担当教員 堤 公一

配当年次 3年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

本授業のねらいは、中学校保健体育教員として必要な実践的指導力を養うことである。そのための到達目標は、以下の通りである。

- 1 中学校保健体育科の授業構成・学習指導・授業分析・評価などの基本的な考え方を理解することができる。
- 2 学習指導要領において取り上げられている体育分野領域「体づくり運動」「器械運動」「陸上競技」「水泳」「球技」「ダンス」「武道」についての授業づくり・授業研究の方法を理解することができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（授業の目標と概要、成績評価について）
2	体育のこれまでとこれから（学習指導要領と保健体育科の変遷）
3	体育の目標・カリキュラム・学習内容（運動の特性と分類）
4	体育の学習指導法（体育におけるICT利活用）
5	体育の授業づくり①（体育授業の条件）
6	体育の授業づくり②（体育授業と評価）
7	体育の授業づくり③（体育授業のリフレクション）
8	体育の授業づくり④（体づくり運動・器械運動・陸上競技・水泳・球技・武道・ダンス・体育理論）
9	体育の模擬授業実践演習①（学習指導案の作成）
10	体育の模擬授業実践演習②（学習カードの作成）
11	体育の模擬授業実践演習③（模擬授業実践「ねらい1」）
12	体育の模擬授業実践演習④（模擬授業実践「ねらい2」）
13	体育の模擬授業実践演習⑤（模擬授業実践「ねらい1」リフレクション）
14	体育の模擬授業実践演習⑥（模擬授業実践「ねらい2」リフレクション）
15	総括リフレクション（模擬授業実践演習レポート作成についての検討）

【履修上の注意事項】

授業回数の2/3以上の出席がない者は、試験を受験することができない。教室での講義だけではなく、授業づくりの演習として模擬授業を行うので、運動のできる服装および屋外屋内シューズを準備すること。授業づくりの演習では授業づくり担当者を割り振るので、その役割をきちんと果たすこと。

授業以外の学習として、授業前にテキストを読むなどして、各回の予定内容について予習を行うこと（60分）。授業後には講義内容についてのリフレクションや整理を行い復習をしておくこと（60分）。

【評価方法】

試験50%、模擬授業実践演習レポート（学習指導案・学習カード・模擬授業実践・リフレクションを含む）50%

【テキスト】

文部科学省（2017）「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編」東山書房
高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖編著（2010）「新版 体育科教育学入門」大修館書店

【参考文献】

北尾倫彦監修（2012）「平成24年版観点別学習状況の評価基標準と判定基準中学校保健体育」図書文化
高橋健夫（2003）「体育の授業を観察評価する」明和出版

保健体育科教育法Ⅳ

担当教員 末松 大喜

配当年次 3年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- ①健康観の変遷を理解する。
- ②国民健康の現状と課題を把握し、中学校期における保健学習はどのようにあるべきかを理解する。
- ③新学習指導要領において明示された保健分野の「技能」「表現」を理解し、実践できる。

【授業の展開計画】

新学習指導要領で明示された保健体育科・保健分野の目標を正しく理解できるようにする。
また、中学校期にとって「おもしろい保健の授業」を展開することができる、保健教科に秀でた保健体育科教師としての力量を高められるように進める。

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション（講義の進め方、受講する際の留意事項、保健教科目の性格等）
2	健康科学概論（中学校期に作り上げる健康観）
3	保健体育科教師に必要な心と健康の倫理
4	保健体育の指導案
5	中学校期の発育の特徴
6	中学校期の発達の特徴
7	良い保健科の授業と悪い保健科の授業
8	保健科教育教材内容の構造化
9	課題レポート（自分が受けた保健科教育）バズセッションと全体討議
10	仮説実験授業、授業書方式・ICTの活用（模擬授業準備）
11	模擬授業① 心身の機能の発達と心の健康
12	模擬授業② 健康と環境
13	模擬授業③ 傷害の防止
14	模擬授業④ 健康な生活と病気の予防
15	模擬授業評価、教育実習および採用試験に向けて

【履修上の注意事項】

各時間の講義課題を明確にして、出席すること。過去受講した健康教育を振り返り、何が良くて、改善すべきことは何かについて、考えておくこと。

【評価方法】

期末試験（40%）、課題レポート・授業参画態度等（60%）

【テキスト】

平成29年版 中学校新学習指導要領の展開 保健体育編 佐藤豊 編著

【参考文献】

最新「授業書」方式による保健の授業 保健科教材研究会 編 大修館書店

道徳教育論

担当教員 未定

配当年次 3年

単位区分 要件外

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

- 1) 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。
- 2) 学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ、情報モラル等）
2	道徳教育の本質
3	学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び内容
4	道徳性 1（道徳教育の原則からみた道徳性）
5	道徳性 2（コールバーグの道徳性発達理論）
6	日本における道徳教育の史的展開
7	学校における道徳教育の現状（新基本法と学習指導要領）
8	「特別の教科 道徳」について
9	道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴
10	道徳科における教材の特徴を踏まえた授業設計
11	道徳授業の指導計画
12	道徳科の学習指導案の作成（模擬授業 1）
13	道徳科の学習指導案の作成（模擬授業 2）
14	道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方
15	道徳教育に関する今後の課題

【履修上の注意事項】

授業内ではディスカッション・ディベート等、話し合い活動を取り入れることが多い。
 参加的態度で臨むこと。
 教育界における「常識」をラディカルな次元に立ち返り疑ってみる鋭敏なセンスを養って欲しい。
 事前に資料を読み、事後は復習しておくこと。

【評価方法】

原則として学期末試験（70％）、小レポート（30％）を評価の対象とする。

【テキスト】

石村秀登・末次弘幸編著『道徳教育の理論と実践』大学教育出版（2018年3月）

【参考文献】

『「道徳」授業に何が出来るか』／宇佐美寛／明治図書

特別支援教育総論

担当教員 水間 宗幸

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

特別支援教育の意義や目的を理解し、学習面、行動面などに困難を抱える子どもの理解を、発達心理学的観点から理解し、それぞれの発達段階や特性に応じた教育および支援の在り方を考えることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション：特別支援教育の概要と中教審「特別支援教育推進について」
2	特別支援教育と発達臨床心理学的考え方
3	読み書き計算などに制約がある子どもの理解
4	読み書き計算などに制約がある子どもの支援の考え方
5	注意集中力などに制約がある子どもの理解
6	注意集中力などに制約がある子どもの支援の考え方
7	社会性の発達などに制約がある子どもの理解
8	社会性の発達などに制約がある子どもの支援の考え方
9	貧困や母国語など社会問題等によって発達に課題を抱える子どもの理解
10	教育課程の中の特別支援教育の理解
11	特別支援教育に関わるアセスメントについて
12	発達に制約がある子どもの二次障害への理解
13	不登校の理解と支援
14	虐待が発達に及ぼす影響の理解と支援
15	学習面、行動面に困難を抱える子どもを支える専門機関の理解

【履修上の注意事項】

予習・復習を行うこと。特に、次回の講義で扱う内容について、必ず教科書を読んでおくこと。復習時には、キーワードを自分のことばで説明できるようになっておくこと。

【評価方法】

授業内での参加態度（20%）、試験（80%）で評価する。フィードバックについては模範解答を示し、希望者には個別に評価内容を伝える。

【テキスト】

はじめての特別支援教育—教職を目指す大学生のために 改訂版（有斐閣アルマ）

【参考文献】

講義時に、適宜紹介する。

教育方法論

担当教員 嶋 政弘

配当年次 2年

開講時期 第1学期

単位区分 要件外

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- 1 多様な学習者に配慮して「教授と学習」という視点に立った学習指導の方法を理解する。
- 2 学習や学校生活における様々な場面に対する対応方法について理解する。
- 3 授業効果を高めるための方法としての教育情報機器の利用について理解し、活用できるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	授業のねらいと展開の方法
2	教育方法の歴史
3	教育方法の類型と特質
4	教育方法の改革と課題① 学力形成の方法論
5	教育方法の改革と課題② 学習の形態と、教師と子どもの関係性
6	教育方法の改革と課題③ 学習の成果とその評価
7	学習指導の実際① 学習指導案作成の手順と目標設定
8	学習指導の実際② 指導計画と本時のねらい
9	学習指導の実際③ 授業準備と学習活動における指導上の留意点
10	学習指導の実際④ 思考の流れを育てるための学習展開の方法
11	教育情報機器の活用① 教育情報機器の例とその効果
12	教育情報機器の活用③ プレゼンテーションの作成方法
13	教育情報機器の活用③ プレゼンテーションの作成方法
14	具体的な場面における指導方法の実際① (生徒指導や生活に関する指導)
15	具体的な場面における指導方法の実際② (健康や安全に関する指導)

【履修上の注意事項】

- 1 ペア・グループによるディスカッションをするため、ペアを作って着席する。
- 2 すべてのペアに発言の機会があるので、常に自分の考えを持って参加する。

【評価方法】

ディスカッションへの参加30%，課題提出？発表30%，期末試験40%で評価する。
追試験は実施しない。

【テキスト】

使用しない。(毎回、学習プリント及び資料を配布する)

【参考文献】

毎回、資料を配布する。参考資料については、授業の中で随時提示する。